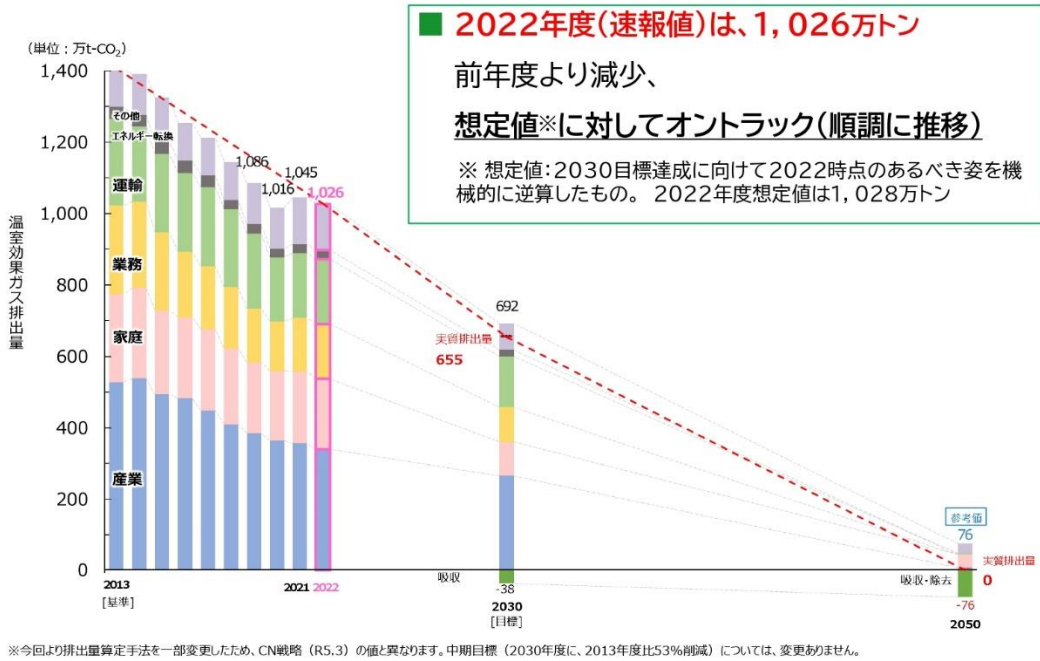


富山県における温室効果ガス排出量の算定結果（2022年度）

1. 温室効果ガス排出量

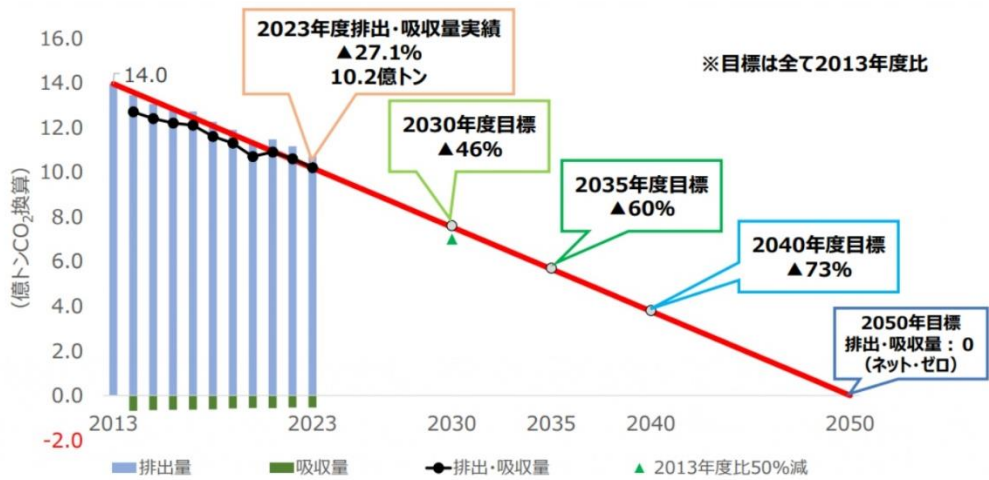
2022年度の県内の温室効果ガス排出量は1,026万t-CO₂であり、2030年度の目標達成に向けて順調に推移している。

温室効果ガス排出量（速報値）



【図1】 県内の温室効果ガス排出量の推移

(参考) 国の進捗・動向等

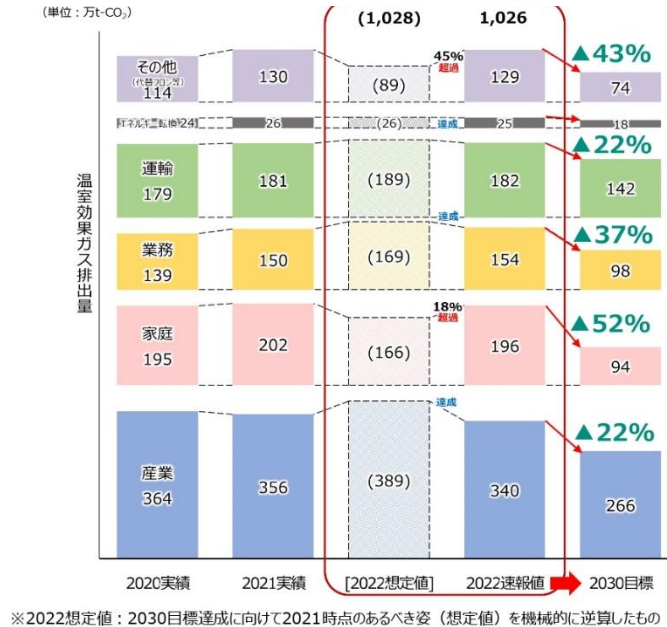


(参考) 全国の温室効果ガス排出量の推移

2. 部門別の排出状況等

2030年度の目標達成まで、全部門で2022年度からさらに52%~22%の削減が必要。特に家庭部門では52%の大幅な削減が求められ、住宅の省エネ化や省エネ機器の導入など、対策の強化が必要。

温室効果ガス排出量の内訳、今後の削減目標



【図2】部門別温室効果ガス排出量

3. 家庭部門に求められる取組み

脱炭素型ライフスタイルへの転換 (「地球温暖化対策計画(改定)」(令和7年2月)より)

■「デコ活」の推進により、脱炭素につながる豊かな暮らし創りを後押し

- ・断熱リフォーム等による住宅(集合住宅を含む)の脱炭素化
- ・自家消費型太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入
- ・LED照明、省エネルギー家電、高効率給湯器、節水機器、HEMS等の脱炭素型の製品・サービスの利用
- ・クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションの実践
- ・地産地消、食べきりによる食品ロス対策
- ・ごみの削減・分別による資源循環の促進
- ・次世代自動車、公共交通機関、自転車等の環境負荷がより少ない移動手段の選択



環境教育及び持続可能な開発のための教育(ESD)の推進 (「地球温暖化対策計画(改定)」より)

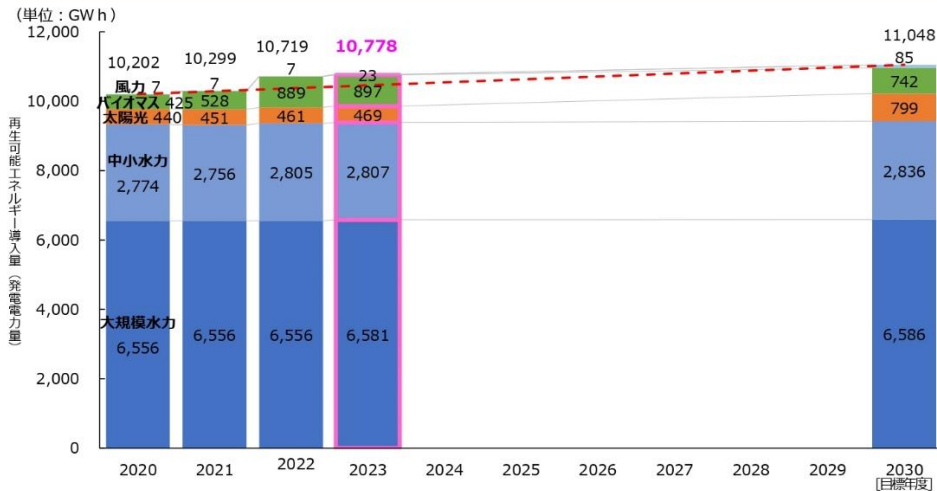
- 全ての大人や子どもに対して、家庭、学校や職場、地域その他のあらゆる場において、社会や組織の変革と個人の変容を連動的に支援促す環境教育を推進することで、ライフスタイル転換を図る

3. 再生可能エネルギー導入量

2023年度の再生可能エネルギー発電の導入量（電力発電量）は10,778GWhであり、前年度から+59GWh増加した。2030年度の目標達成に向けて、太陽光発電の大幅な増加（+330GWh）が必要。

再生可能エネルギー導入量（発電電力量）

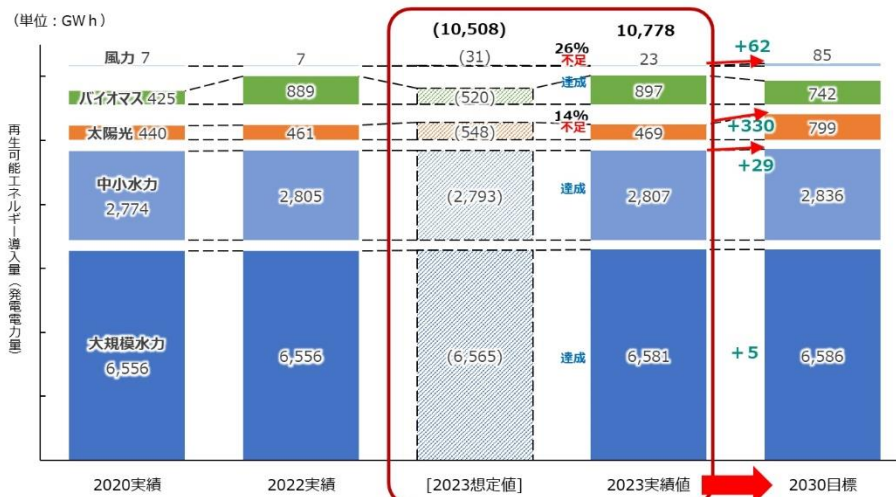
■ 2023年度は10,778GWh
 前年度(2022年度)から+59GWh増加
 太陽光+8、水力+27、風力+16(入善沖洋上風力発電設備(7,495kW)導入)



※集計値の修正により、CN戦略 (R5.3) の値と異なる箇所があります。導入目標（2030年度に、2013年度比+846GWh）については、変更ありません。

再生可能エネルギー導入量（発電電力量）の内訳、目標

■ 目標達成(7年後)に向けて **太陽光(+330GWh)の大幅な増加** が必要
 風力：陸上風力(朝日町で計画中)により増加見込み
 水力：県営水力のリプレース、民間事業者等による小水力発電への参入の促進



※2023想定値：2030目標達成に向けて2023時点のあるべき姿（想定値）を機械的に逆算したもの